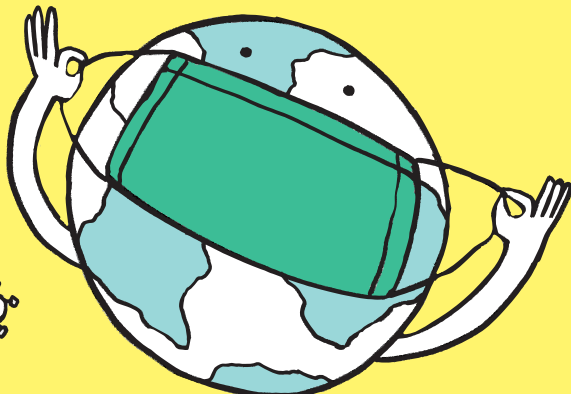


# パンデミックは 私たちの社会を どう変えるか

令和4年度岐阜大学公開講座



Remote Work



Pandemic



受講料無料

対象 / 高校生以上

募集人数 / 70人  
(応募者多数の場合は抽選)

2022.

9.10 **土** 13:00~17:00 (各講義50分)

会場 岐阜大学サテライトキャンパス (JR岐阜駅前)

〒500-8844 岐阜市吉野町6丁目31番地 岐阜スカイウイング37 東棟4階

※オンライン開催に変更となる場合があります。

## プログラム

- 林 正子 名誉教授「〈感染症文学〉からの学び — 森鷗外の文明批評と自己探究」
- 山本 公徳 教授「コロナ禍で浮上した現代地方自治の課題」
- 野原 仁 教授「アフターコロナにおける学びのスタイル」
- 小西 豊 准教授「プーチンのロシア — パンデミックからウクライナ侵攻へ—」

申込方法 申込期限 / 8月22日(月)

受講を希望される方は、件名を「公開講座受講希望」とし、以下のメールアドレスへ、「住所」、「氏名(ふりがな)」、「年齢」、「電話番号」、「メールアドレス」をお送りください。

E-mail: [chiiki@gifu-u.ac.jp](mailto:chiiki@gifu-u.ac.jp)

※お寄せいただいた個人情報は厳重に保管し、本講座に関する連絡以外の目的では一切使用致しません。



(アクセス) JR岐阜駅から徒歩5分 名鉄岐阜駅から徒歩7分

申込先・問合せ先

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1

岐阜大学 地域科学部 総務係 Tel: 058-293-3002

E-mail: [chiiki@gifu-u.ac.jp](mailto:chiiki@gifu-u.ac.jp)

主催 / 岐阜大学

企画 / 地域科学部

13:00 — 13:05 開講挨拶

13:05 — 13:55 林 正子 名誉教授(日本近代文学)

## 「〈感染症文学〉からの学び — 森鷗外の文明批評と自己探究」

近代日本の作家が感染症をどのように描き、人々に警鐘を鳴らしたかについて、森鷗外の事例を中心にをご紹介します。鷗外は小説・随筆・詩・短歌・評論・翻訳など多岐にわたるジャンルで活躍した文豪であるとともに、陸軍軍医総監・医務局長を務めた衛生学者でもありました。ドイツ留学では、ロベルト・コッホ、マックス・フォン・ペッテンコーファーに師事し、実験実証医学を日本に持ち帰った業績がある一方、次男を百日咳で亡くし、自らも肺結核・萎縮腎で亡くなった、感染症の犠牲者のひとりであったといえるでしょう。鷗外生誕160年、没後100年という記念年に、感染症への対応という観点から、鷗外による文明批評と自己探究について考察し、その現代的意義を論じます。

13:55 — 14:05 休憩

14:05 — 14:55 山本 公德 教授(行政学)

## 「コロナ禍で浮上した現代地方自治の課題」

新型コロナウイルス感染症は、社会に潜在化していたさまざまな問題を露にしています。この講座では、その中から地方自治、中央地方関係に突き付けられた問題について、日本に即して検討してみたいと思います。21世紀の日本は、「地方分権一括法」の成立を大きな画期として、「地方分権」の取り組みを重ねてきました。他方、行政事務の中には中央政府の指導下で全国一律に取り組むべき課題も存在します。その典型が、コロナ対策も含まれる公衆衛生行政です。コロナ対策をめぐる浮かび上がった中央政府と自治体首長の「対決構図」は、そうした分権と集権の軋轢の現れであると考えられます。こうした問題を念頭に置きながら、現代行政に求められる中央地方関係のあるべき姿について展望してみたいと思います。

14:55 — 15:05 休憩

15:05 — 15:55 野原 仁 教授(メディア学)

## 「アフターコロナにおける学びのスタイル」

コロナによって、大学での講義の多くが、対面ではなく、インターネットやウェブカメラなどを用いたオンラインやオンデマンドで実施されるようになりました。特にインターネットのおかげで、たとえば日本の自宅でアメリカの大学の講義をオンラインで受講することも、すでに実現しています。このことは、コロナによって、新たな学びのスタイルが現実化したことを意味しています。その一方で、対面での講義が無くなったことが、学びたいという希望を奪うという事態も生じています。こうした、コロナによる学びのスタイルの変化を、どのように捉えて、アフターコロナの状況に生かしていくのかを、ぜひ一緒に考えましょう。

15:55 — 16:05 休憩

16:05 — 16:55 小西 豊 准教授(国際経済学)

## 「プーチンのロシア — パンデミックからウクライナ侵攻へ」

ロシア大統領にプーチンが就いて22年が経過した。ソ連崩壊後のエリツィン体制下での混乱やチェチェン紛争を収拾する一方で、近年は保守主義、権威主義を志向するロシア。

2022年2月24日、ロシアが兄弟国ウクライナに軍事侵攻したのは一体なぜなのか。

まずは「ロシアの世界観」とプーチンの論理でウクライナ侵攻を読み解くとともに、2014年クリミア半島の併合以降、経済制裁を受けてきた経済動向と新型コロナ感染症がロシア経済、社会に与えた影響について考察していきたい。

16:55 — 17:00 質疑応答・閉講挨拶

